

2 実施・結果概要

(1) 実施した学年、教科、学校数及び児童生徒数（県内、公立・私立・国立すべての学校を対象）

小学校：第5学年、第6学年：国語、社会、算数、理科

・実施学校数：377校（95%） 実施児童数：第5学年 19,644人（93%）
第6学年 19,405人（93%）

中学校：第1学年、第2学年：国語、社会、数学、理科、英語

・実施学校数：183校（90%） 実施生徒数：第1学年 18,909人（90%）
第2学年 19,323人（89%）

(2) 結果分析の方法

- ・設問ごとの県全体の正答率をもとに結果分析し、指導改善の方向を明らかにした。
- ・全調査の中から、無作為に解答例を抽出し、結果分析の参考とした。

(3) 結果の概要

- ・各教科とも、基礎的・基本的な内容については全体として十分身に付いているといえる。
- ・今後は、総合的に判断する力や状況に応じて適切に表現する力等について、一層高めていく必要がある。

【正答率】

- ・正答率が70%を上回る問題が、すべての問題の中の70%程度みられる。
60%を下回る問題は、16%程度みられる。

【教科別具体事例】（ : 十分身に付いている力 : 一層高めていく必要がある力）

- ・国語 話されている内容や、話し手の意図を考えながら聞く力など
文章構成に注意しながら読む力、自分の考えを深めながら書く力など
- ・社会 地名、歴史上の人物名、用語などの基礎的・基本的なことから理解など
知識・理解を基に、理由や背景を考える力、考えを表現する力など
- ・算数、数学 簡単な四則計算の技能、方程式の立式、図形の性質の理解など
式に表現する力や複数の根拠を用いて考察する力など
- ・理科 自然の事象についての基本的な知識・理解や観察・実験に関することなど
観察・実験の方法を企画する力、結果に基づいて考えを記述する力など
- ・英語 短い英文から必要な情報を聞き取ったり、読み取ったりする力など
状況に応じて適切な表現を選ぶ力、情報を適切に構成して書く力など

(4) 今後の対応

結果分析を踏まえ、次の2点から指導改善の方向を具体化する。

- ・各学校において、課題として明らかになった力を一層育成するために、「指導計画の工夫改善」「指導方法の工夫改善」等の具体化を図り、授業改善を一層推進する。
- ・県教育委員会として、各学校における学力向上の取組を支援することができるよう、「学力向上プロジェクト」「生きた英語力育成支援事業」などの学力向上のための施策を具体的に推進する。